

第1 地価公示結果における本県地価のポイント

1 令和2年1月1日における本県の地価は、住宅地では8年連続上昇し、商業地では7年連続上昇した。上昇幅は住宅地、商業地ともに縮小した。

(1) 平均変動率をみると、住宅地では1.1%（昨年1.2%）、商業地では4.1%（昨年4.6%）上昇した。

(2) 上昇、横ばい、下落地点数の割合をみると、住宅地では、上昇地点が65.7%（昨年63.1%）、横ばい地点が19.1%（昨年21.2%）、下落地点が15.2%（昨年15.7%）となった。

また、商業地では、上昇地点が74.1%（昨年70.2%）、横ばい地点が18.9%（昨年19.7%）、下落地点が7.1%（昨年10.1%）となった。

2 地域別の地価は、住宅地では、名古屋市、尾張地域は上昇幅が縮小、西三河地域は上昇幅が拡大、知多地域、東三河地域は下落幅が縮小した。また、商業地では、名古屋市は上昇幅が縮小、尾張地域、西三河地域は上昇幅が拡大、知多地域は下落から横ばいとなり、東三河地域は下落から上昇となった。

(1) 地域別の平均変動率をみると、住宅地では、名古屋市で2.0%（昨年2.3%）、尾張地域で0.7%（昨年0.9%）、西三河地域で1.9%（昨年1.8%）上昇したが、知多地域で Δ 0.1%（昨年 Δ 0.2%）、東三河地域で Δ 0.6%（昨年 Δ 0.8%）下落した。

また、商業地では、名古屋市で7.7%（昨年8.9%）、尾張地域で1.2%（昨年1.1%）、西三河地域では1.4%（昨年1.3%）上昇したが、知多地域で0.0%（昨年 Δ 0.2%）と下落から横ばいとなり、東三河地域で0.3%（昨年 Δ 0.2%）と下落から上昇となった。

(2) 市町村別の平均変動率をみると、住宅地では、刈谷市など32市町（昨年33市町）で上昇したが、南知多町など16市町村（昨年15市町村）で下落した。

また、商業地では、名古屋市など26市町（昨年22市町）で上昇したが、南知多町など13市町（昨年14市町）で下落した。

(3) 名古屋市各区の平均変動率をみると、住宅地、商業地とも昨年と同じく全ての区で上昇した。

3 最も大きい上昇率を示した地点は、住宅地では、「名古屋中-4（丸の内3丁目）」（23.8%）、商業地では、昨年と同じく「名古屋中5-7（錦2丁目）」（28.2%）であった。一方、最も大きい下落率を示した地点は、住宅地では、「南知多-7（豊丘）」（ Δ 5.9%）、商業地では、昨年と同じく「南知多5-1（大井）」（ Δ 4.9%）であった。

(1) 住宅地では、変動率上位5位までの地点は名古屋市中区及び東区の地点となった。

また、商業地でも、変動率上位5位までの地点は名古屋市中区及び中村区の地点となった。

(2) 住宅地では、変動率下位5位までの地点は南知多町、美浜町、及び田原市の地点となった。

また、商業地では、変動率下位5位までの地点は南知多町、蒲郡市、美浜町及び西尾市の地点となった。